

作業体験教室

相馬小学校 3年生



6月17日、相馬小学校3年生の児童が2回目のリンゴ作業体験教室を行い、摘果作業を学んだ。

始めに児童らは前回行った授粉作業の時と樹の様子が違う事に気づき、「小さいリンゴになっている」と、花が実になっていたり驚いていた。園主の佐久間さんは「みんなが一生懸命花に花粉を付けたおかげでこうなりました。」と授粉作業の重要性を伝えていた。

今回行う摘果作業の必要性を蝦名振興課長補佐が説明。

児童らの中には「5個ある中の実を残す。」「大きい実を残す。」などと言った声があり、作業の内容を知っていた児童もいた。注意点として、実を無理やり取ったり周りの葉を破いたりしないことや、取った実を友達に投げない事等が厳しく伝えられた。

作業に取り掛かると、上手く実を取ることが出来ずに「硬くて難しい。」「困った様子や、「真ん中の実が小さい」などと戸惑う児童



仲間と協力しながら作業を進める



園主の佐久間さんと一緒に作業



摘果の仕方に興味深々の児童ら



青空リンゴ

J A相馬村 女性部

が目立っていた。

そこで、困っている児童らに手を差し伸べたのは女性部の方々であった。

「左手でツルを抑えて、右手で果実を摘み取るのいいよ。」「真ん中ではないけどもこの実の方が大きいから残そうか。」など言った言葉をかけ、児童らは安心して作業をしていた。こうして女性部らと作業をしていくうちに「先生こっち来て。」と呼ばれることが増えていた。作業は無事終了し、休憩のため女性部から児童らへリンゴジュースが渡された。児童らは達成感からかみんなで「カンパイ」と掛け声を上げ飲んでいて、それを見ていた部員らは「プレゼントして良かった。」と笑顔で見守っていた。

「久しぶりに小学生の活発さに触れて、元気をもらった。次回の教室も楽しみだ。」と大黒谷より子女性部長は喜びを述べていた。次回は7月上旬に袋掛けを行う予定である。



「休憩にりんごジュースどーぞ」



「中心果はこれだよ」と教える部員



仲間頑張ったご褒美にカンパイ



部長に感謝の気持ちを伝える児童